

審査の結果の要旨

氏名 増田 理恵

本研究は日米の両国において、就学前教育（幼稚園、保育園等）の利用が子どもの重度喘息に与える影響を明らかにすることを目的とし、準実験的デザインを用いた観察研究により、下記の結果を得ている。

1. 米国の **Pre-Kindergarten (Pre-K)**（4歳児を対象とした幼稚園）の利用群および非利用群のデータと、対象者の7年分の **Medicaid** データをリンクしたデータセットを作成し、傾向スコアウェイトを用いた差の差分析により、**Pre-K** 利用の重度喘息による医療サービスの利用への影響を明らかにすることを試みた。その結果、**Pre-K** 入園群は非入園群に比べて、入園後には重度喘息による医療サービス利用が増加し、卒園後は医療サービス利用が低下することが明らかとなった。
2. 日本のコホートデータを用い、保育園または幼稚園（以下、「就学前教育」とする）への入園と喘息による入院の関連を、都道府県ごとの就学前教育への待機児童割合を操作変数に用い、就学前教育へのアクセシビリティを説明変数とした二段階推定法により明らかにすることを試みた。さらに、両者の関連が家庭の社会経済的地位によって異なるかどうかを明らかにすることを試みた。その結果、就学前教育へのアクセシビリティの高さは、喘息による入院を減少させることが明らかとなった。また、就学前教育の喘息による入院に対する保護効果は、家庭の社会経済的地位および親の喫煙行動によって有意に変化することがなく、就学前教育の重度喘息への保護効果の普遍性が示唆された。

以上、本論文は日米の両国において、就学前教育が重度喘息を早期発見し、保護的な効果をもたらすことを明らかにした。就学前教育と重度喘息の関連について、準実験的な因果推論の手法を用いて解明しようとしたものは先行研究に例がなく、本研究は就学前教育および公衆衛生分野における政策決定に重要な貢献をなすと考えられる。よって本論文は博士（保健学）の学位請求論文として合格と認められる。